



Title	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第17号 編集後記／奥付
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2021, 17
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88291
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編集後記

2020年は、コロナウィルスに翻弄され、不安と恐れの中で希望を語る言葉を探し続けた一年でした。特に言葉の教育に関わる実践及び研究をしているMHB学会の会員にとっては、教育とは何か、言葉の教育とは何か、コミュニケーションとは何か、といったことについて、改めて考えることの多い一年だったのではないのでしょうか。そうした中で、MHB学会は、創立以来初となるオンライン学会を開き、また、様々なSIG活動をリモートにて展開しながら多くの会員の皆さまと新たな学びを模索した一年でもありました。その学びの軌跡を、ここに『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』17号としてお届けいたします。

今号は、2020年度研究大会のテーマでもありました「文化的言語的に多様な子ども（CLD児）の言語能力評価と教育」を特集テーマとして掲げ、基調講演及び大会企画パネルを受けた2本の招待論文と、一般投稿論文5本（研究論文1本、研究ノート4本）を掲載いたしました。今号には12本の投稿論文が寄せられ、厳正な査読を経てそのうちの5本を採択いたしました（採択率41.7%）。惜しくも採択にならなかった論文の中にも、MHB学会が掲げるテーマを真摯に追究しようとする優れた論考も多くありました。MHB学会では、会員の皆さまの研究に役立てていただけるよう、査読者及び編集が心を尽くして講評をお返ししておりますので、ぜひ再度投稿していただきますようお願いいたします。

査読に関わってくださった皆さまには、貴重なお時間と労力を惜しまずにご協力くださったことに心から感謝申し上げます。とりわけ、本学会の理事外で査読にご協力いただきました先生方には、その専門的見地から多くの助言をいただきましたことを、ここに記して感謝申し上げます。また、編集に際しましては、校正者石丸美子氏、あおぞら印刷さまなど、多くの方々のご尽力を得ました。不慣れな編集作業で行き届かぬ点も多かったことと思います。発刊までお支えくださった関係者の皆さまに編集委員より心から御礼申し上げます。

MHB学会理事 紀要編集委員

佐野 愛子

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究 第17号

2021年5月31日 発行©

発行者：母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会

MHB事務局：〒257-0005 神奈川県秦野市上大槻山王台999

上智大学短期大学部 英語科

宮崎幸江研究室内 MHB事務局

電話：0463-83-9331（代） FAX：0463-81-7809（代）

URL: <https://mhbm.jp>

印刷所：株式会社あおぞら印刷 〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町15